

2025年2月13日

国立市議会議長
高柳 貴美代 様

子どもたちを安心して育てる環境を求める陳情

陳情の趣旨

私たちは認定こども園「風の子」の保護者の有志です。今、「NPO 法人くにたち農園の会認定こども園国立富士見台団地風の子」は、約 60 年ものあいだ、保護者と保育者と地域住民が協力して作り上げてきた保育の環境が、存続の危機に晒されています。

5 年前、前身である「国立富士見台団地幼児教室（通称：風の子）」は保育料無償化の対象となるために、NPO 法人くにたち農園の会の傘下に入りました。しかし、幼児教室保護者と農園の会理事の間で約束された、「団地自治会の傘下にいるのと同じ」という約束は開園当初から本日まで実現していません。風の子の子育て文化とは、風の子を起点として、親や地域の人々が自発的に動き、皆でこどもの成長を見守っていく、本来の子育て支援のあるべき姿そのものです。この活動は、園長先生をはじめ現在の職員が長年に渡り地域の方々・保護者と築いてきた信頼関係の上に成り立っています。私達は、この子育て文化を何としても守っていくべきだと考えています。この 5 年間、保護者から法人との歩み寄りの機会を繰り返し設けましたが、双方の主張が対立し、解決の道が見えません。保育者も保護者も安心して風の子で過ごすことが叶わず、こどもたちの明日がどうなるのかという心配が消えません。

現在、市の担当課も両者の関係をより良い方向に導くべく尽力してくださっていますが、依然、対話が成立しない状況が続いています。本来ならば、法人の理事会により良い解決の道を模索していただきたかったのですが、理事会もそれが導き出せず苦勞しておられるように見受けられます。この問題に向き合い続けた保護者の精神的疲労も限界に達しています。

これは、現在の保育行政が生んだ、法人格のちがいによる保育格差でもあります。国立市におかれましては、国立市政誕生とともに生まれ研鑽を積んできた保育施設の子育て文化と、国がこども園を設置した背景、保育料無償化の主旨に鑑み、こどもたちのために、この件に関し主体的に関わって解決に導いていただきたく陳情を提出いたします。

陳情事項

- ① 風の子の保育環境をつくってきたプロセスと、法人が正しいと考える運営プロセスの双方を検証し、よりよい保育環境を協議する組織を立ち上げるよう「農園の会」に働きかけてください。
- ② こどもと保護者が望む、より良い保育体制を継続できるよう「農園の会」に働きかけてください。